「本田あきこ　オレンジ日記」９月送付分

本田あきこ　オレンジ日記

自宅療養を経験して

自民党厚生労働部会副部会長
参議院議員・薬剤師　本田顕子

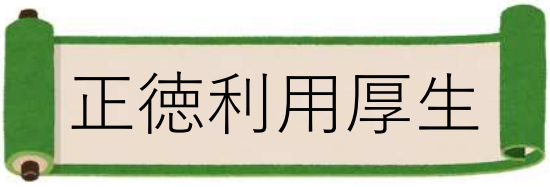
この度は、大変ご心配をおかけしました。8 月 18 日から復帰し党務を中心に活動を再開しております。

さて、“厚生”の語源は、中国古代の歴史書、書経に書かれている「正徳利用厚生」に由来し、「衣食を十分にし、空腹や寒さに困らないようにし、民の生活を豊かにする」という意味です。私はこの言葉の意味と実行の大切さを、自宅療養を通し改めて実感しました。

私は今回検査陽性となり、８月 10 日、保健所からの電話で自宅療養を伝えられました。「自宅療養」とは、新型コロナウイルスを人にうつすことを極力抑えるための隔離、社会との遮断、そしてコロナ感染症という病気を治すための治療と養生の期間であると私は理解しました。ワクチン接種の効果もあり、私の場合は熱が出ることなどなかったため、オンライン診療等の必要はありませんでした。無症状といっても、多少の身体の変化はありました。起きる時に体が鉛のように重く感じるのです。以前検査陽性となられた経験がある、とかしきなおみ先生は「起き上がるときに引力を初めて感じた」とおっしゃいました。私はその言葉が本当にぴったりだと思いました。

こうした身体の変化を感じながらも治療という実感がなく不安に過ごされている自宅療養者が多くいらっしゃると思います。そして、その方々の不安な思いが不満につながっていくことを私たち国会議員も重く受けとめなければならないと思いました。

8 月 31 日の自民党新型コロナ本部の緊急提言では、医療機関と薬局等の連携のもとで自宅療養者にも医薬品を円滑に投与できるよう早急に指針を示すべきと記載されています。

コロナ感染症の治療の道筋に貢献できるよう、先輩方に学び頑張ってまいります。

※　イラストは縦横使いやすい方をご使用下さい